

新年を新たなお気持ちでお迎えのことと思います。

コロナ禍の中ですが、今年こそ変革の機運をたかめる年と思っています。地域で平和・くらし・健康・人権をまもる取り組みを多くの人たちと進めつつ、なによりも日本共産党の前進のために力を尽くします。

同時にトミ子は新舞踊、ペン習字、演劇鑑賞を、忠は山歩きとHP「新・山と花のたより」の継続をと、趣味も息長く続けます。

皆様、今年もよろしく願いいたします。

2022年元旦



写真は松尾治

ぬかいだけ 額井岳(大和富士・816m)に登る



畑の中を抜け、額井公民館の前を通過して8:35 十八(いそは)神社に。宇陀の山々を見渡せる好展望の地。

村人こぞつての勧請縄(かんじょうなわ)かけ

神社では村の人たちが大勢集まって、勧請縄かけの準備にいそしんでいる。村のはずれに勧請縄を張り渡し、豊穰と疫病退散などの願いを込めるのだろう。勧請縄には種々のものを吊るすらしいが、以前東吉野村で見かけた「赤い鯛」のレプリカをここでも吊るすのかと聞いたら「ここは鯛は吊らない」との返事。

鏡開きのおすそ分け

トイレをお借りし、衣服調整をしていると「鏡びらき」のおすそ分けを頂いた。砂糖醤油をまぶした餅が美味しかった。作業を続ける皆さんに礼を言っ



今年の元旦は新聞配達の当番だったため、恒例の二上山元旦登山はできなかった。

代わりに1月10日宇陀市の額井岳に登った。

額井岳は大和富士とも呼ばれる秀峰。榛原(はいばら)の街の北側に聳えている。

電車・バスそして歩いて登山口へ

近鉄榛原駅前発のバスに乗り8時天満台東2丁目で下車。道を引き返し、すぐの四つ角で右折して北側の山に向かって上り始

↑麓から見た額井岳

める。住宅地から



て8時50分登山道に入る。

急登を息はずませながら

道は人と雨によってか、二重にえぐられていて歩きにくい。間もなく林道に出て、すぐに杉・檜林の中の急登を登り始める。正月からの運動不足がたたったのか、体が重く、息が上がる。山頂も近くなった頃、10 数人の中高年男女のグループに追い抜かれる。

10 時額井岳山頂着。追い抜いて行ったグループが休憩している。兵庫県から来たとのこと。

竜王社があり雨乞いの山

山頂広場には小さな社があり、竜王が祀られている。ここでも雨乞いの岳のぼりが行われると言う。グループの女性からお菓子のおすそ分けを頂く。



戒場山登頂を諦め、山部赤人墓へ

休憩して 10:15 縦走路に向けて下り始める。こちらも急下降の路で、切れ目なくロープが取り付けられている。慎重に下り一つ目の鞍部に着き、10:40 サガビリ山を通過、さらにアップダウンを経て 11:30 戒場(かいば)峠着。ここに道標があり右に下れば山部赤人墓とある。残念だが戒場山登頂を諦め、ここから下ることとした。急斜面をジグザグに降りて林道に出、さらに林道を下って 12:00 広い自動車道路に出た。12:15 山部赤人墓に到着。

赤人の墓からバス停に

ここには自然石の歌碑と説明板、東屋と石塔が木陰に静かに佇んでいる。赤人は奈良時代の著名な歌人。「田児の浦ゆ---」の歌が有名だが、「駿河の富士を詠じた赤人が・・大和富士の下に眠るとは、どんないわく因縁か」と「青垣の山々」の著者は述べている。墓の前から林の中を下って天満台東3丁目のバス停へ。13:17 発のバスで榛原駅に向かった。

いつまで続けられるか山歩き

下りが思っていたより長く、疲れ果てて帰宅した、私の山歩き、いつまで続くか、続けられるか。

続・二上山に咲く花々 27

キリ(桐) キリ科キリ属

写真は 故・澤木仁さん

二上山ふるさと公園の山側林の中にキリの巨木が数本あり、5月頃、大きな紫色の花を空高く、多数咲かせる。またその樹下には多数の花を落下させる。花冠は5cmくらいの大きさ。

材は軽く、しかも湿気を通さず、狂いが少ないのでタンス、下駄、楽器などの材料として尊重される。

また耐火性に富み、金庫の内張りとしても用いられる。

葉をデザイン化した紋章・家紋も良く知られている。

